



青木 ^{いっさ}一颯さん

●赤見小学校6年

お年寄りの笑顔のために

ぼくの将来の夢は、介護士になることです。

ぼくはもともとお年寄りが大好きで、父と母が勤めている介護施設に行った時に、おじいさんやおばあさんとふれ合って、さらにお年寄りが好きになったからです。

将来、介護士になれば、困っているお年寄りの方を一人でも多く助けたいと思います。お年寄りの方を少しでも幸せな気持ちにして、笑顔にすることができる人になりたいです。



佐野ブランドキャラクター
さのまる © 佐野市

市長からの メッセージ



梅林公園や朝日森天満宮の梅の花が見ごろになってきました。ザゼンソウやセツブンソウもかわいらしい花を咲かせ、春の訪れを伝えてくれています。

今月16日からは、町谷町の「万葉自然公園かたくりの里」で、スプリングフラワーフェスティバル「かたくりの花まつり」が開催されます。今年も本市の花であるカタクリの可憐な姿を求めて、市内はもちろん県内外からも多くの方々が足を運んでくれることでしょう。来訪された方々を「おもてなしの心」でお迎えし、佐野市の魅力とすばらしさを皆さんと伝えていきたいと思っております。

先月は、冬季オリンピックが韓国ピョンチャンの平昌で開催され、日本選手の活躍に一喜一憂しながら応援をしていました。4年間、つらく厳しい練習を行い、その成果を発揮しようと頑張る選手のひたむきな姿に胸が熱くなりました。今月からのパラリンピックでも、代表選手の頑張りに声援を送りたいと思います。

現在、本市では今後の東京オリンピックや栃木国体を見据え、競技力の向上や将来の励みにももらうため、佐野市スポーツ賞、ジュニアスポーツ賞の表彰を行っています。1月23日には全国大会などで活躍した各種目の小・中学生58人にジュニアスポーツ賞を贈りました。今後、本市から日本を代表する選手が誕生することを楽しみにしています。

3月は年度の締めくくりであり、卒業式のシーズンです。市立の中学校は12日、市立の小学校は19日に卒業式が行われます。別れる悲しみもありますが、新たな出会いも待っています。卒業される皆さんの新たな門出に際し、さらなる成長と活躍を期待します。

これから日々暖かくなりますが、油断せず風邪などひかないようご自愛ください。

岡部正英



今回の表紙 「梅の花」 佐野市梅林公園 平成30年2月6日撮影

唐沢山の東のすそ野、富士町にある梅林公園には、毎年、春の梅の開花時期になると、遠く県外からも大勢の花見客が訪れています。梅の花は例年、2月下旬～3月中旬に見ごろを迎えます。ぜひ皆さんも訪れてみてください。

まゆみ
松林 真弓 さん
(田沼町)



キラリ★
話題の「ひと」

○プロフィール
平成29年度商工会青年部連絡協議
会主張大会関東ブロック代表
野菜ソムリエ

まちのお母さんになりたい

松林さんは野菜ソムリエの知識を活かし、子育て世代のお母さんたちを対象にした料理教室や食育講話を中心に活動しています。また、佐野市が行っている「チャレンジショップ制度」で試験営業を終了した後、「赤ちゃんからご年配の方まで味わっていただけのお店にしたい」という夢を実現させ、お店を開業しました。

開業して忙しい毎日の中でも、娘さんとの時間を一番に考えることに変わりはなく、娘さんの経験になればとあそ商工会青年部が主催する職業体験イベント「あそキッズ」に参加したことをきっかけに女性部員第一号として青年部に入部し、今では主催者側として、飲食ブースの企画・運営を行い、昨年はハンバーガー屋さんを体験できるようサポートしたそうです。

そして、部員の推薦を受け、昨年開催された商工会青年部主張発表大会に出場することになり、主張では、青年部の活動のこと、お店のこと、未来の担い手である子どもたちのことを語り、栃木大会、関東ブロック大会と最優秀賞に輝き、関東ブロック代表として、沖縄で開催された全国大会に出場

しました。そこでは惜しくも優勝は逃したものの、大応援団と一つになったことが最高の喜びだったそうです。

小学5年生の娘さんは、松林さんが作るスープのおかげで、入学してから無遅刻・無欠席を続けており、主張大会の日も、学校で大好きなお母さんの健闘を祈っていたようです。

「地域の子どもたちを見守り続けたい」とこれからの抱負を語ってくれた松林さんは、野菜ソムリエの資格とあそ商工会青年部の活動を通し、すばらしい『まちのお母さん』になることでしょう。

3月3日(土)に行われる、佐野市生涯学習フォーラム「佐野楽」の分科会では、松林さんの体験発表があります。ぜひ足を運んでみてはいかがでしょうか。

(市民記者 中里聖子)



「あそキッズ」で子どもたちの体験をサポートする松林さん



野いちごを、
蛇が寝るときの枕というので
ヘビノマクラといった

蛇にまつわる話(言い伝え)は数多くありますが、その中には方言もよく出てきます。その方言の主なものを取り上げてみました。かつて蛇を総称してオカウナギなどといった言葉は川に生息しているのに、同じような細長い形をした蛇は、「おか(陸)」に生息しています。それで蛇をオカウナギともいうようになりました。蛇はからだを渦巻状に巻いていることがありますが、このような状態を、「とぐるまく」といいますが、方言ではタグロマク、あるいはタグルマクなどといいます。いずれも「とぐるまく」が訛ったものです。

まむしがとぐるまいた状態にあると、からだがばね(スプリング)のようなはたらきをするので、かみつかれる恐れがあります。

「まむしがタグルマイで、首をモチャゲじつとしているときは、危ネから近寄ンネ方がエーよ。飛び上がって手足をがぶつとみつかれツから」

蛇にちなんだ植物に「へびいちご」があります。野原や道端などに生えるので、野いちごともいいます。へびいちごは、赤色でいちごのような小さな実をつけ、それを蛇は好んで食べ、また、枕にして寝るといふ言い伝えがあります。そこでへびいちごは、ヘビノマクラともいわれています。

「ミチツバタ(道端)」で、ヘビノマクラをよく見かけるけど、蛇はこれが好物で枕にしたり食べたりした、なんて昔の人はいつてましたっけねえ」

(市民記者 森下喜一)

